



# INFOS

日仏整形外科学会広報誌

アンフォ

■名誉会長……………七川 敬次      ■会長……………小野村 敏信      ■副会長……………小林 晶  
Président d'honneur — K. SHITIKAWA      Président — T. ONOMURA      Vice-Président — A. KOBAYASHI  
■書記長……………瀬本 喜啓      ■書記・会計……………大橋 弘嗣      弓削 至      青木 清      藤原 憲太  
Secrétaire général — Y. SEMOTO      Secrétaire et Trésorier — H. OHASHI      I. YUGE      K. AOKI      K. FUJIWARA  
■幹事……………坂巻 豊教      金子 和夫      安永 裕司  
Membre exécutif — T. SAKAMAKI      K. KANEKO      Y. YASUNAGA

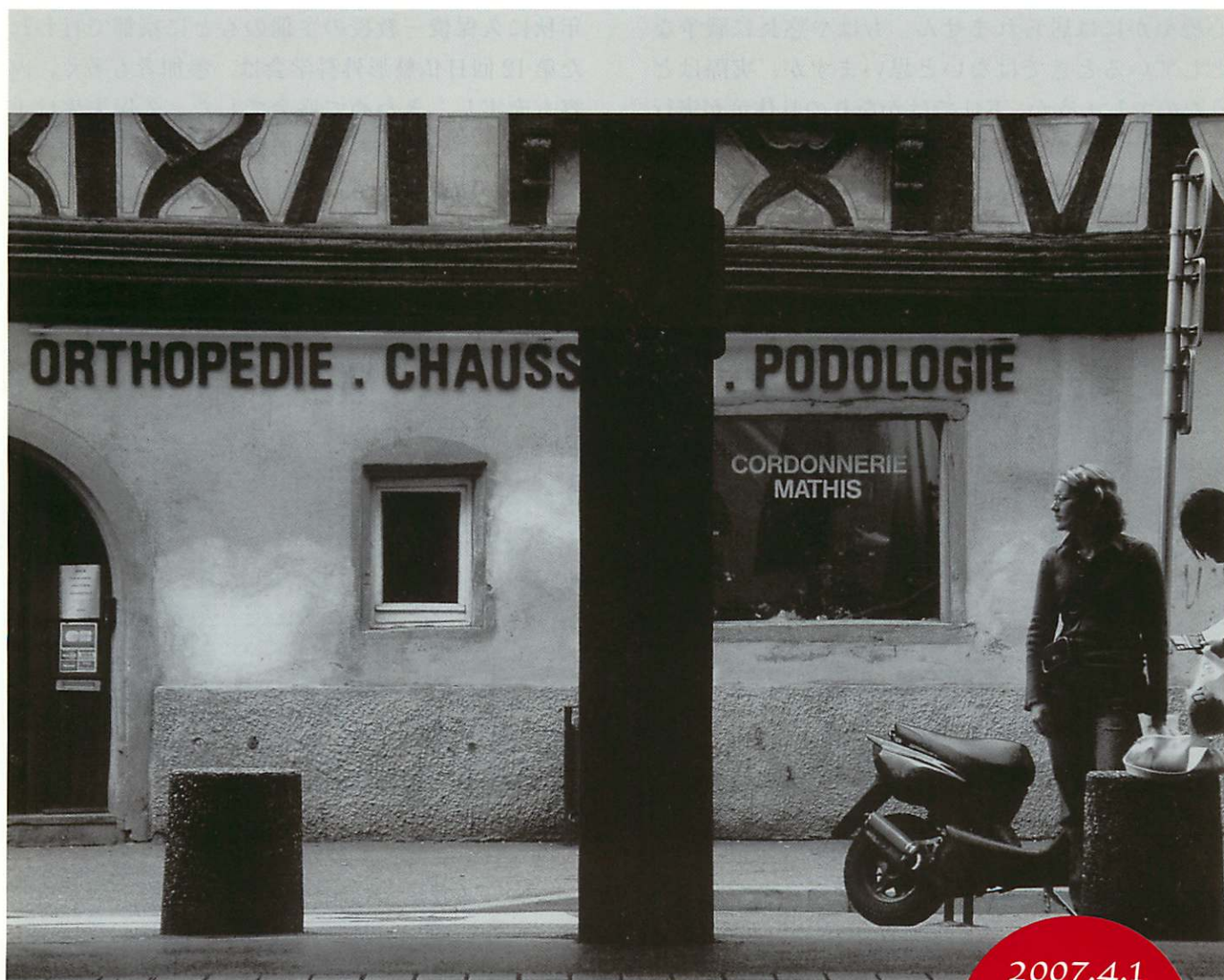
■事務局：〒 530-0012 大阪市北区芝田 2 - 10 - 39 大阪府済生会中津病院内（係：大橋弘嗣）  
Tel. (06) 6372-0333 Fax. (06) 6372-0339

Bureau : Maison d'édition: Saiseikai Nakatsu Hospital, Shibata, Kita-ku, Osaka 530-0012 JAPON

■発行所：〒 530-0012 大阪市北区芝田 2 - 10 - 39 大阪府済生会中津病院（編集者：大橋弘嗣）  
Tel. (06) 6372-0333 Fax. (06) 6372-0339

Maison d'édition: Saiseikai Nakatsu Hospital, Shibata, Kita-ku, Osaka 530-0012 JAPON (Éditeur: H. OHASHI)

■ホームページアドレス：<http://www.sofjo.gr.jp>



▲佐々木健二写真集「人生好日」から著者の許可を得て転載（本誌 27 頁参照）

2007.4.1

VOL. 17

# 去年のこと、今年のこと

## 知恵を出し合わねばならない時

記録的な暖冬で2007年が始まりました。皆様、お褒りなくお過ごしのことと存じます。暖かい冬という私などにとってはむしろ有難い面が多いのですが、これを化石エネルギーの使いすぎや森林伐採など関係する地球の危機として捉えると、心穏やかには居られません。もはや悠長に戦争などしているときではないと思いますが、実際はどうなのでしょう。EUではかなりの具体策が実行に移されつつあるという報道を聞くとホッとしますが、京都議定書を出したままの日本では、二酸化炭素の排出はむしろ増え続けているとのことです。われわれの医療については、ここ数年来、目

先の医療経済の危機に振り回されている感が否めません。環境問題、医療問題ともに長期のヴィジョンのもとに皆で知恵を出し合わねばならない時なのでしょう。

## 盛会だった第12回日仏整形外科学会

さて本誌で詳しいご報告があると思いますが、昨年秋に久保俊一教授の主催のもとに京都で行われた第12回日仏整形外科学会は、参加者も多く、内容も充実し、きわめて盛会でした。久保先生は十数年前にこの学会の交換研修プログラムでフランスに行かれましたが、今回招待されたCaton先生とはそのときに知遇を得られたとのこと。もう一人の招待者のLiverneaux先生は、やはりフラ



## 小野村 敏信

ンスからの第1回の交換研修医として京都府立医大に滞在されました。

このようにこの制度を活用された方々が今や日本、フランスの整形外科の中心的なメンバーとして活躍されているのは、学会にとって大変嬉しいことです。いずれにしましても今回の学会をお引き受けいただいて以来の久保先生の卓越したご企画とご努力により、実り多く楽しくそして充実した会を持てましたことを、久保先生ならびにスタッフの皆様から心から御礼申し上げる次第です。

### 一筋縄ではいかない「少子化対策」

日仏整形外科学会としましては、このように盛り上がってきた会のアクティビティーを維持し更に発展を期するためには役員会の充実が必要であると考えて新たに幹事の職を設け、昨年より坂巻豊教先生、金子和夫先生、安永裕司先生の3人の方にご就任いただきました。

私、昨年のこのINFOSの巻頭言の中で、日本では1.3辺りにある合計特殊出生率がフランスでは1.9に回復し、近い将来人口増の見込めること、その理由としてフランスでは出産前後の社会的ケアの良いたことが挙げられるという報道をお伝えし、その実態をフランスの人に聞いてみたいと書きました。

以前この学会にゲストとして来てもらったことのあるマルセーユのBollini先生が日本側彎症学会(瀬本喜啓会長)のために昨年秋に再来日され、ゆっくりと話す機会がありましたので、このことを聞いてみました。彼が言うには、たしかに出産後の職業復帰の保障や、託児施設の充実が出生率を上げる要因として大きいですが、フランスで人口減少を食い止めているのは外国からの移民をどんどん受け入れているからだという別の要因があり、これには単純に喜んでいられないいろいろの問題を含

んでいるとのことでした。先日来、日本ではいささか次元の低い「産む機械」発言で揉めましたが、少子化対策はなかなか一筋縄ではいかないようです。

### 久しぶりの嬉しい言葉

そのBolliniさんと京都駅を歩いているとき彼が言うには「どうして日本の街はどこへ行ってもこんなにクリーンなのだろう」。そういえば観光シーズンで人は多いのに、駅構内の床はピカピカ、外まわりの通路や道路にも紙くずや吸殻などはほとんど全く見当たりません。

「人の集まる場所でもゴミのないのは日本だけだ。どうしてこんなことが出来るのか。この文化を作り上げる背景がすごい」と、いたく感服の様子。フランス人の感性なのでしょうが、久しぶりに外国の人から嬉しい言葉を聞きました。われわれには誇りとして大切に護って行くべきものや習慣がまだまだあるようです。

### 第9回日仏整形外科合同会議にご参加を

さて本年は第9回日仏整形外科合同会議が9月14、15日にニースで開かれます。ホストは昨年来られたCaton先生です。ニースはご存知のとおり、のすばらしい町で、きっと思い出に残る会議になると期待しています。ご案内は本誌に載っていますので、是非ご計画いただいて、ご一緒に参りましょう。

## 第12回 日仏整形外科学会を開催して 深甚の謝意を申し上げます

私は、第3回交換留学生として、日仏整形外科学会からフランスへ留学する機会をいただきました。いつかはこの恩返しをさせていただきたいと願っておりましたが、平成18年10月14日フランス・パリとの姉妹都市であります京都の地で、私が会長として第12回日仏整形外科学会を開催する機会を得ました。これは、私にとって大きな喜びであっただけでなく、わが京都府立医科大学整形外科学教室にとりましても大きな名誉でありました。

今回は、少しでも多くの整形外科の先生方に日仏整形外科学会を知っていただくことでお世話になった本学会への恩義に報いたいとの考えから、例年のように大きな学会のサテライトとして開催せず、単独の日程を決めて終日開催としました。そのため、演題の集まりや会員の方々の学会への御参加を大変留意しておりましたが、36題もの演題を応募いただき、当日は会員先生方のみならず多くの非会員の先生方が学会に終日参加してくださいました。この

会への参加を機に新入会していただけた先生もおられましたので、日仏整形外科学会の発展に少しばかり寄与できたのではないかと考えています。

フランスからは、私が交換留学生としてフランスに滞在した際に大変お世話になったCaton先生と第1回交換留学生として私共の教室に滞在され2006年4月にストラスブール大学の教授となられた手の外科医のLiverneaux先生をお招きして、招待講演をしていただきました。Caton先生は、“HERMES patello-femoral prosthesis” と “Lengthening strategy in subjects of short stature” の2演題を、Liverneaux先生は舟状骨骨折に対するナビゲーション手術の基礎研究の演題を講演してくださいました。どちらのお話もフランス整形外科の獨創性や個性を感じさせてもらえるものでありました。

全員懇親会では、京都の伝統芸能である京舞を鑑賞いただきました。また、特別の趣向として、ワイ



第12回日仏整形外科学会 会長 久保俊一

(京都府立医科大学大学院医学研究科 運動器機能再生外科学 整形外科学教室 教授)

ン好きの整形外科医の会でもある日仏整形外科学会の伝統を守りました。長年に渡って交換留学に尽力いただいている Japon-Survice Europe のジラン敬子氏を通じてフランスから“Château de Lisennes Bordeaux Esprit” という赤ワインを取り寄せ、御賞味いただきました。会員同士の懇親をさらに深めていただけたのではないかと思います。

最後に、本学会が無事終了できましたことは、座長を快くお引き受けくださり会の進行に御協力くださった先生方、日仏整形外科学会の役員の皆様をはじめとした会員の先生方、そして参加していただいたすべての先生方の御協力の賜物と感謝しております。この場をお借りして深謝させていただきます。

今後の本学会のさらなる発展を祈念いたしまして、第12回日仏整形外科学会開催のご報告に代えさせていただきます。



14:30 ~ 15:20

招待講演 I

座長：小林 晶

Kirschner wire placement in scaphoid bones using fluoroscopic navigation: A cadaver study comparing conventional techniques with navigation

Dr.Philippe A .Liverneaux  
(Professor,Department of Hand Surgery, Strasbourg University Hospital, France)

15:30 ~ 16:20

招待講演 II -1, 2

座長：久保 俊一

1. HERMES patello-femoral prosthesis
2. Lengthening strategy in subjects of short stature

Dr.Jacques Caton  
(Director,Department of Orthopedics and Traumatology,University of Claude Bernard,Lyon 1, France)

10:00 ~ 10:25

主題 1：新しい診断と治療

座長：井樋 栄二

- 01 膝骨壊死に対する NaF-PET の画像所見

荒武 正人 (横浜市立大学 整形外科) 他

- 02 電流知覚閾値検査で異常を認めない手根管症候群の電気生理学的特徴

牧之段 淳 (西陣病院 整形外科) 他

- 03 特発性大腿骨頭壊死症に対する骨髄単核細胞移植

山崎 琢磨 (広島大学 整形外科) 他

10:25 ~ 10:50

主題 2：骨軟部腫瘍の基礎

座長：小宮 節郎

- 04 新規腫瘍抗原同定に向けた悪性線維性組織球腫細胞株と自家腫瘍傷害性 T 細胞クローンの樹立と解析

木村 重治 (札幌医科大学 整形外科) 他

- 05 Fibroblast activation protein と dipeptidylpeptidase-IV のヒト骨軟部腫瘍における組織起源特異的発現

土肥 修 (東北公済病院 整形外科) 他

- 06 がん幹細胞の同定と特異性の解析

瀬戸口 哲夫 (鹿児島大学大学院 整形外科) 他

10:50 ~ 11:15

主題 3：骨軟部腫瘍の臨床

座長：大塚 隆信

- 07 膝蓋骨合併切除を要した軟部肉腫の膝伸展機構再建—アキレス腱を含んだ腓腹筋弁の応用—

小山内 俊久 (山形大学 整形外科) 他

- 08 上腕骨良性骨腫瘍に対する鏡視下搔爬術の有用性

小林 正明 (名古屋市立大学 整形外科) 他

- 09 転移性骨腫瘍の予後因子と予後予測システム

片桐 浩久 (県立静岡がんセンター 整形外科) 他

11:25 ~ 11:50

主題4：足

座長：木下 光雄

10 腓骨筋腱脱臼の治療経験

井上 敏生（白十字病院 整形外科）他

11 踵骨脆弱性骨折の画像所見

羽鳥 正仁（東北大学 整形外科）他

12 着脱可能な靴型ギプスの紹介

羽鳥 正仁（東北大学 整形外科）他

11:50 ~ 12:20

主題5：人工関節

座長：齋藤 知行

13 形成不全股の3次元解剖学解析とそれに基づいたラテラルフレア付セメントレスシステムによる手術戦略

井口 普敬（名古屋市立守山市民病院 整形外科）他

14 Cemented alumina on alumina THA の中期成績

松浦 正典（大阪府済生会中津病院 整形外科）他

15 シルコニア骨頭とコバルトクロム骨頭のポリエチレン磨耗の比較：randomized prospective comparison による術後5年の成績

稲葉 裕（横浜市立大学 整形外科）他

16 TKAにおけるセラミックス対ポリエチレン摺動面の摩耗形態 — 26年に渡る臨床経験—

大西 啓靖（富永病院 大西啓靖記念人工関節研究センター）他

13:40 ~ 14:05

主題6：脊椎

座長：佐藤 哲郎

17 骨粗鬆性脊椎骨折偽関節例に対する脊柱短縮術

小渾 浩司（東北大学 整形外科）他

18 椎弓根スクリューによる固定を併用した kyphoplasty の12例

後藤 毅（社会保険神戸中央病院 整形外科）他

19 腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡下片側進入両側除圧術

麻殖生 和博（和歌山県立医科大学 整形外科）他

14:05 ~ 14:20

主題7：小児整形外科

座長：坂巻 豊教

20 大腿骨頭骨端線狭小化を来たした症例

賀古 俊夫（（独）国立病院機構 箱根病院 整形外科）他

21 OMC 装具を用いた特発性側彎症の治療成績

瀬本 喜啓（近江温泉病院 小児整形・そくわんセンター）他

13:00～13:30

ポスターセッション

フリーディスカッション

- P-01 “Die punch Model” 設定による骨折発症機序の究明 (第2報)  
田中 晴人 (関西福祉大学)
- P-02 橈骨遠位端骨折に対するintrafocal pinning (IFP)法と掌側ロッキングプレート (DRV)法の治療成績の比較  
善家 雄吉 (香川労災病院 整形外科) 他
- P-03 Kienböck 病に対する血管柄付き第3中手骨移植  
河合 生馬 (京都第二赤十字病院 整形外科) 他
- P-04 高齢者の上腕骨頭海綿骨における骨密度と骨強度の検討  
山田 光子 (藤田保健衛生大学第二教育病院 整形外科) 他
- P-05 頸髄症手術症例における短潜時体性感覚誘発電位と5年臨床成績  
林田 達郎 (公立南丹病院 整形外科) 他
- P-06 当院の脊髄損傷患者における異所性骨化の合併に関する検討  
森 正樹 (京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院 整形外科) 他
- P-07 当科における高齢者に対する頸椎後方拡大術数の推移  
安藤 滋 (秋田大学 整形外科) 他
- P-08 慢性脊髄圧迫モデルマウスにおけるASK-1を介したアポトーシスシグナル伝達経路の検討  
竹之内 剛 (鹿児島大学 整形外科) 他
- P-09 von Recklinghausen 病に発生した骨肉腫一症例報告  
羽鳥 正仁 (東北大学 整形外科) 他
- P-10 人工股関節置換術後6年でステム頸部が折損した一症例  
大橋 鈴世 (明治鍼灸大学 整形外科) 他
- P-11 大腿骨顆上骨折を生じたRA膝に対しTKAを施行した一例  
小見出洋人 (京都地域医療学際研究所附属病院 整形外科) 他
- P-12 特発性大腿骨頭壊死に対する血管柄付き腸骨移植術の成績  
藤原 正利 (西神戸医療センター) 他
- P-13 MISにおけるフルオロナビゲーションの有用性  
禰 史明 (大阪市立大学 整形外科) 他
- P-14 廉価な3次元骨モデルを用いて行った股関節手術の経験  
平出 隆将 (名古屋市立守山市民病院 整形外科) 他
- P-15 同一患者の側に従来の骨セメント法、他側に界面バイオアクティブ骨セメント法を行った人工股関節置換術20～21年後のX線像の比較  
大西 宏之 (富永病院 大西啓靖記念人工関節研究センター) 他
- P-16 界面バイオアクティブ骨セメント法をおこなった同一股関節内における水酸アパタイト顆粒の介在部と非介在部の組織像の比較  
金 石哲 (富永病院 整形外科) 他





心身ともに健康な生活を送るために、科学的な知見に基づいた医療の発展を期す。また、国際的な交流を通じて、最新の医療技術や研究成果を共有し、患者の利益に貢献する。



了(整形外科教室)教授



Dr. Philippe A. Laverneux  
 Professor, Department of Hand Surgery,  
 Strasbourg University Hospital,  
 Strasbourg University Hospital,  
 University of C.  
 Dr. Jacques Catté  
 Director, Department of Hand Surgery,  
 University of C.  
 Schermer Wire Placement in Scaphoid Bones Using  
 Intraoperative Navigation!  
 ERMES Palmar-Femoral Prosthesis  
 Engineering Strategy in Subjects of  
 Dr. Jacques Catté  
 Director, Department of Hand Surgery,  
 University of C.

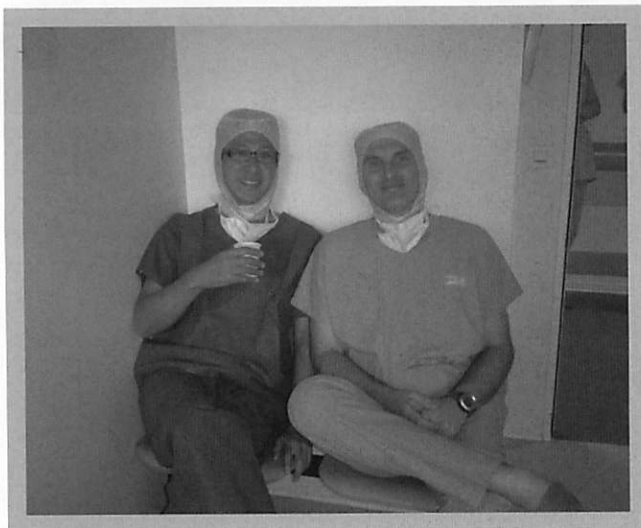


## 彼らがどう考えどう手術を進め診療をしていくのか、 その空気を楽しむ事に専念しようと 決意しておりました。

奈良県立医科大学 整形外科  
城戸 顕 先生

### はじめに

私は平成18年8月31日よりパリ市内のパリ第5大学医学部の付属病院にあたるコシャン病院の整形外科Bのアンラクト教授のもとに2ヶ月間滞在し腫瘍の外科を中心に研修させて頂きました(写真1)。同病院にはこれまでもこの交換プログラムに参加した多数の先生方が整形外科A、Bでの研修を受けられ、或は近隣の施設での研修時のパリ市内の宿舎として滞在しておられます。同病院の立地やケルブール等、同病院が輩出した数多くの偉大な先達については既にこの交換プログラムに参加された諸先輩方の帰朝報告をお読み頂ければ幸いです。



●写真1 手術場にてアンラクト教授と

同病院の整形外科にはAとBの独立した二部門があり、診療領域にはこれとって明らかな区別を持たず、関節外科から外傷まで幅広く診療が行われています。只、腫瘍の外科は整形外科Bのみで行われているとの事でした。私が渡仏する数週間前に丁度整形外科Bの部長が交代され、先代部長である腫瘍外科の大家ベルナルド・トメノ教授は引退して非常勤に移り、あらたに弱冠45歳のフィリップ・アンラクト教授が新部長に就任され采配を揮っておられました。アンラクト教授はホンダの大型バイクで毎日出勤、車はトヨタのランクルと日産のマーチ、柔道は黒帯という親日家で、トメノ前教授と同じく腫瘍外科領域でも素晴らしい業績を挙げておられます。また、小生の渡仏10日前には第四子が誕生なさったとの事、小生のシャルルドゴール空港到着時にはご長男を出迎えに待たせて下さり、滞在中は何かと細かく気を配って下さいました。

### 幸運であったことに

私にとって非常に幸運であった事は、平成16年度に本交換プログラムのフランス側からのフェローとして福岡の総合脊損センターに滞在したブリス・イラレボルド医師が若手リーダーの一人として小生の滞在した整形外科Bに勤務していた事です。渡仏まだ間もない頃、昼飯抜きで長引いた手術の後など早速飲みを誘ってくれ、旨いアントレコートをさっと御馳走して



くれた流石にスマートなこのパリっ子は、メイヨ・クリニックに基礎研究の留学経験もあり日本の事情にも詳しく英語堪能頭脳明晰容姿端麗の三拍子揃い踏みで、何かと世話を焼いてくれ、小生には心強い限りでした。同じく若手リーダー格の腕白者“会計”マックアントワヌ・ルソー医師、小生が同室に机を頂き朝のコーヒーとクロワッサンを良く御馳走してくれたカメル・アジョイ医長、誰よりも早く自宅に招待してくれた松濤館空手の有段者アレクサンドル・ミレー医長、この30歳前後の活動的な4人は特に仲良く小生に接してくれ、快適な滞在生活を送る事ができました。

またアンラクト教授の計らいで、隔週ごとにコシャン病院と隣接する癌センターのキュリー研究所とで交互に行っている腫瘍学カンファレンスに参加させて頂く他、パリ南部に位置するパリ第11大学ピセトル病院のクール教授、コシャンに隣接するアラゴクリニックのミセナール医師の手術も見学できるよう段取りして頂いた事、これらもまた幸運なことでありました。

## ■ ■ ■ 宿舎のこと、そして食堂には掬

整形外科、小規模救命センター、それに熱傷病棟の入っているオリエール棟という6階建ての建物の最上階の隅にシャワー、トイレを備えた簡素な部屋があり、滞在中はこの部屋に居候させて頂きました。以前は整形外科の研修中の医師がこの部屋に住み込み、食事も後述する若手医師用の食堂で済ませ、つまり専門医ま

での卒後5年間（内科系は4年間）の研修期間を院内で暮らせる様にと備えられた施設ですが昨今では、若い先生も皆、院外にアパートを借りて暮らしているとの事、従ってこの部屋は現在、ゲスト用の部屋として専ら利用されているようです。

5階の患者病室の前を病棟の隅まで通り抜け、管理通路のような狭い屋根裏階段を上って行き来せねばならぬこの部屋は、最上階とあって長い西日でとても暑く、9月初旬でも午後9時過ぎまで入れたものでは有りません。どちらかというとなかなか手狭で余り清潔とも言えず、先に滞在された日本人フェローの先生が自腹を切って残されたテレビ、コンロなどになんとか快適に過そうとした先達の工夫の跡が忍ばれます。

しかしながら物価がこの上なく高いパリの事情を鑑みるに、こういった宿泊／食事施設を無償で利用して長期の研修をパリ市内で受けさせて頂ける事はやはり言うまでも無く有り難い事であります。

直訳すると当直医食堂とでもなるサルドギャルドは若手医長も出入りしますが、主としてこの5年間を終了するまでの若手医師用の食堂で、朝、昼、夜を問わず食事をとる事が出来ます。この食堂にはフランスの医学部で先輩たちから代々受け継がれているという幾つかの掬があり、曰く(1) 向かって右から順に詰めて席につくべし。(2) 後から来たものは先に座っているもの全員の肩を右から順に軽く叩きこれを挨拶とすべし。(3) ワインはコルク抜きを使わず食食用ナイフを上手に使って瓶口を割って開けるべし(写真2)。(4)

●写真3A・B 知る人ぞ知る腫瘍外科の名手ミセナール医師の神業的手術（アラゴクリニック）



食事中はフランス語以外話すべからず。(5) 患者や仕事の話は最後のコーヒーが出るまで決してするべからず、等等。

この食堂内では教授を超える絶対の権力を以て君臨しエコノム！（会計？幹事？）と敬意を持って称えられる先述のリーダー格のルソー医師は毎月各科リーダー格の医師から幾ばくかの金額を徴収しており、これを金曜のみ昼食に供される“シャトー・コシャン (!?)”ワイン代に充てていた事が強く印象に残ります。この腕白も UCSF の留学経験を持ち卒業後5年にして5つの英語論文の主著者、10論文の共著者で、未来のパリ大学教授を目指す秀才であった事を補足します。

## 日課、そしてこの交換研修で何を学ぶのか

毎朝 A、B 部門合同で7時45分から前日の外傷症例報告、8時からB部門の会議室に移り前日の術後報告（毎日が手術日です）、8時半から執刀開始、火、金の午後は術前カンファ、隔週月曜の合同腫瘍カンファが主とした日課です。私は手術症例はアンラクト教授、トメノ教授の腫瘍の症例、新たにコシャンで大転子骨切りを工夫したという人工股関節置換術などに沢山入らせて頂きました。

これまでに滞在された中にはこちらでまず語学学校に通われ、或は原則3ヶ月の研修期間を半年、一年と

延長し研鑽を積まれた先生方もいらっしゃるとの事で、その努力と向学心には頭が下がる思いがします。ここで交換研修の選考委員の諸先生のお叱りを覚悟で書くならば、しかしながら応募年齢上限ぎりぎりの私は、この度の渡仏は、諸先輩方より志一層ひくく、もとより僅かな期間での、しかも非英語圏での臨床留学を、細かな技術を身につけるインテンシブなトレーニングにする事や、或は細かく症例を検討して論文にするといった“成果を出す”形の滞在にするのは到底不可能であると割り切り、所謂いい年をしたポリクリとして、彼らがどう考えどう手術を進め診療をしていくのか、その空気を楽しむ事に専念しようと決意しておりました。

ただ手術だけは、助手をする以上手術器械の名称だけは素通りする訳にもいかぬと怠け者の小生もかなり奮闘しました。筋鉤、鉗子、摂子の類いです。日本で余り見かけぬ器械も結構あります。大きい、小さい、有鉤無鉤、自分の手袋のサイズ、いろいろ看護婦さんに言えないといけません。仏語です。

この点は大分勉強いたしました。セットエデミットと叫ぶと7.5の手袋が出てきます。アンコルフォアとお願いするともう一組出してくれます。ガウンの紐の閉め具合を訊かれてもいつもセボンセボンです。術者が大きな声でアンシジョンと叫んで手術開始、相づちはボアラです。やばめの失敗は迷わずデソレと謝ります。

●写真4 カメル医長、学生たちと。パリ大学医学部の学生の75%は女性だそうです



サバ?には即サバ! 昼過ぎに別れるときはボナプレミ  
ディであなたもパリ語ペラペラです。

適応の是非を含め、色んな意味で一番印象に残った  
症例を提示します(写真3A・B)。大腿骨骨肉腫。骨  
外浸潤は有りません。執刀は腫瘍外科の名手ミセナ  
ル医師(アラゴクリニック)。驚くほどの手際の良さ  
と出血の少なさで大腿骨全置換を行い同種骨で再建、  
術中要所所に秘訣を説明して下さいます。

## ■ フランスは、そしてパリの町は

余り予備知識無く飛び込んだフランスは、そしてパ  
リの町は、かつて縁あって数年間滞在していたゲルマ  
ン語圏で抱いていた印象とは随分かけ離れた、非常に  
人情にあふれるあたたかい土地でした(写真4)。若  
千年を喰って日本から押し掛けてきたこの交換フェ  
ローと親しく接してくれた全てのパリっ子の同僚たち  
に、そしてこの留学の機会を与えて下さいました日仏  
整形外科学会の小野寺敏信会長、滞在先の決定にあたり  
お世話頂いた同じく本学会の瀬本喜啓先生、藤原憲  
太先生への感謝の辞をもってこの稿を終えさせて頂く  
事に致します。ありがとうございました。敬子様、そ  
して私を快く迎えてくれたコシャン病院整形外科ス  
タッフの皆様に心より御礼申し上げます。

### 参考資料

1) 「仏日整形外科学用語集(第2版)」

森崎直木編 文光堂 東京 1991年  
(絶版となっており入手はなかなか困難のようですが…)

2) 「医学フランス語会話」

泉義雄/ミシェル・アグノー著 医薬出版 東京 2001年  
(フランス語での履歴書作成など、とても役に立つ情報が満  
載です)

3) 「パリ医学散歩」

岩田誠著 岩波書店 東京 1991年  
(歴史ある病院の見学もパリ滞在の楽しみのひとつとなるで  
しょう)

# あなたも フランス研修に！

日仏整形外科学会では、フランス整形外科学会（SOFECOT）との間で青年整形外科医の交換研修を行っております。来年度の研修条件、応募条件等は次頁のとおりですのでお申し込み下さい。

本交換研修プログラムの趣旨は、フランスとのコネクションを持たない青年医師に留学先を紹介し、渡航費用と滞在費の一部を援助するというものです。したがって、一度フランス留学を経験しておられる先生は応募を御遠慮下さい。

## 日本側・フランス側役員を紹介します

### 日本側役員

名誉会長	七川 歆次
会 長	小野村敏信
副会長	小林 晶
書記長	瀬本 喜啓
書 記	大橋 弘嗣
	弓削 至
	青木 清
	藤原 憲太
幹 事	坂巻 豊教
	金子 和夫
	安永 裕司
日本側公式連絡員	ジラン敬子

### フランス側役員

Président	Jacques CATON (Lyon)
Vice Président et Secrétaire Général	Philippe MERLOZ (Grenoble)
Trésorier	Philippe WICART (Paris)
Membres du bureau	Philippe LIVERNEAUX (Rochefort)
	Jérôme COTTALORDA (Saint Etienne)
	Arain DURANDEAU (Bordeaux)
	Jean Pierre COURPIED (Paris)

## 募 集 要 項

1) 募集人員	若干名（平成 20 年度）
2) 研修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 滞在期間は 3 か月間を原則とする。 この間はヴィザが不要であるが、これを越して滞在する場合の延長に関するすべての手続き（語学学校入学手続きやヴィザ発給のための受け入れ承諾書の依頼等）は自分ですること。 1 か月単位であれば複数の施設での研修も可能である。</li> <li>2. フランスでの滞在施設は、希望する研修分野等に応じてフランス側の担当委員が最も適当と思われる施設を推薦する。ただし応募者が特定施設を希望するときは申し出ることができる。 <u>研修期間中の家族の同伴は原則として認められない。</u> (注意：本制度は大学の若手医師アンテルヌが病院に寝とまりしている部屋に泊まることを原則としている。滞在費用を自己負担する場合はこの限りではないが、家族への宿舎斡旋等に関して過去にさまざまなトラブルがあったため、学会として援助や斡旋は一切行わない。 特にパリにおいてはアパートの契約等に関するトラブルが多く、貴重な滞在期間の多くを宿舎探しに費やすこともあるので、フランスに知人等がいない場合は単身のほうが望ましい)</li> <li>3. 費用について             <ol style="list-style-type: none"> <li>a) 渡航費用の一部を日仏整形外科学会が援助する。</li> <li>b) フランス滞在中の本人の宿泊費はフランス側が負担する。 <u>ただし家族を同伴する場合は、宿泊費や食費等のすべての滞在費は自己負担とする。</u></li> <li>c) 食費およびフランス国内での移動の費用は原則として応募者の負担とする。</li> </ol> </li> <li>4. 帰国後、仏語（英語でも可）と日本語での報告書の提出ならびに本会の総会での帰朝報告を行う。</li> <li>5. 本年度の研修開始時期は 4 月以降とする。</li> </ol>
3) 応募条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 応募者は日仏整形外科学会会員であること。</li> <li>2. 応募者は日本整形外科学会認定医であること。</li> <li>3. 原則として 40 才を応募年令の上限とする。</li> <li>4. 勤務している病院または施設の責任者の承諾のあるもの。</li> <li>5. フランス語または英語を話すもの。</li> </ol>
4) 応募に必要な書類	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日仏整形外科学会交換研修申請書</li> <li>2. 履歴書（大学卒業以降とする）</li> <li>3. 日仏整形外科学会会員 2 名の推薦状——推薦者は身元保証人に準ずる者と考えること。</li> <li>4. 業績目録——主な発表論文 5 編以内（論文の別刷りは不要）</li> <li>5. 渡仏承諾書             <ol style="list-style-type: none"> <li>a) 大学の医局勤務者……………教授の承諾書</li> <li>b) 病院または施設勤務者……………勤務している病院または施設の責任者の承諾書 <u>（大学の医局人事により出張中の者は、教授の承諾書も要す。）</u></li> </ol> </li> </ol> <p>以上 1. 以外の書式は自由であるが、すべて <b>A4 サイズに統一</b>し、上記の順にならべて左上をホチキスで綴じること。また、<b>コピー 8 部</b>を同封すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 連絡用住所シール（5 枚）……………希望する連絡場所を記入して上記の書類とともに返送すること。 連絡用住所シール（5 枚）あて先は～～～先生としてください。</li> </ol>
5) 選考方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第 1 次審査は書類選考とする。書類審査の結果は平成 19 年 7 月上旬に個別に連絡する。</li> <li>2. 書類選考に合格したものには平成 19 年 8 月上旬に大阪府済生会中津病院において面接を行う予定である。面接の時間は個別に通知する。</li> <li>3. 合否は平成 19 年 8 月中旬に通知する。</li> <li>4. 合格者は後日改めて仏文または英文の履歴書等、フランスでの研修に必要な書類が求められる。</li> </ol>
6) 申請締め切り	平成 19 年 6 月 30 日必着
7) 申し込み先	<p>日仏整形外科学会事務局    大阪府済生会中津病院整形外科内 〒530-0012 大阪市北区芝田 2-10-39 大阪府済生会中津病院整形外科 Tel(06)6372-0333    Fax(06)6372-0339</p> <p style="text-align: right;">日仏整形外科学会                      係    大橋 弘嗣</p>



# 日仏整形外科学会交換研修申請書

様式 2

H20-1

申請者氏名 \_\_\_\_\_ 性別 \_\_\_\_\_ 年齢 \_\_\_\_\_ 歳

仏 文 姓 \_\_\_\_\_ 名 \_\_\_\_\_

生 年 月 日 \_\_\_\_\_

住 所 〒 \_\_\_\_\_

電 話 番 号 \_\_\_\_\_

勤 務 先 名 \_\_\_\_\_

勤務先住所 〒 \_\_\_\_\_

勤務先電話番号 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

研修を希望する専門領域 \_\_\_\_\_

研修を希望するフランス側の機関（病院）があればお書き下さい。

希望する滞在期間 平成 20 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日 から 平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

（本年度は 4 月以降から研修開始とする）

会話可能な外国語（○印をつける）

\* フランス語 \* 英語 \* その他（ \_\_\_\_\_ ）

家族について（○印をつける）

\* 同伴する \* 同伴しない

配偶者も医療関係者の方はその職種を書いてください

過去に本学会の交換研修に応募歴がある方は、何年に面接を受けたかお書き下さい。

平成 \_\_\_\_ 年

上記の如く日仏整形外科学会交換研修を希望し応募いたします。

平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

氏名 \_\_\_\_\_ 印



# フランス人研修医 受け入れのお願い

本年度も日仏整形外科学会とフランス整形外科学会（SOFECOT）との間で、青年整形外科医の交換研修を実施いたします。

受け入れ期間は原則として3ヶ月間ですが、1ヶ月でも2ヶ月でも結構ですので、是非会員の先生方のおられる施設で、フランス人整形外科医の研修を受け入れて頂きたくお願い申し上げます。

来日するフランス人医師は、英語を話す事が条件になっております。また日仏間の旅費はSOFECOTが支給し、日本での滞在費（宿泊費・旅費）は、日本側（原則として受け入れ施設が）負担することになっております。受け入れを承諾していただける場合は、受け入れ承諾書に滞在条件等をご記入いただき、係までご送付ください。

日仏整形外科学会 会長 小野村敏信  
日仏整形外科学会 交換研修係 小野村敏信  
連絡先：大阪府済生会中津病院整形外科

〒530-0012 大阪市北区芝田 2-10-39  
TEL 06-6372-0333（お問い合わせは大橋弘嗣まで）  
LU7H-OOHS@asahi-net.or.jp



# フランス整形外科医交換研修受け入れ承諾書

様式 1

(日仏整形外科学会 交換研修プログラムによる)

フランス青年整形外科医を対象とした、交換研修プログラムの日本側受け入れを以下の条件のもとで承諾します。(すでに登録されている施設は、変更事項のある場合のみお送りください。)

受け入れ責任者 \_\_\_\_\_

受け入れ施設名 \_\_\_\_\_

住 所 \_\_\_\_\_

電話番号 ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

専門分野 \_\_\_\_\_

受け入れ条件 (該当する項目の□内にチェックして下さい)

\* 受け入れ可能な期間 (原則としては3ヵ月間です)

3ヵ月間  2ヵ月間  2ヵ月間  何ヵ月でもよい  その他( \_\_\_\_\_ )

\* 受け入れ可能な時期

月から 月まで  月を除く  常時受け入れる

その他 (具体的に \_\_\_\_\_ )

\* 受け入れ可能な人数

年間1人  年間2人  年間3人以上  その他 ( \_\_\_\_\_ )

同一時期に1人  同一時期に2人以内  同一時期に3人以上

その他 ( \_\_\_\_\_ )

\* 宿泊設備について

宿泊設備を無料で利用可能

宿泊設備を有料で利用可能 (1日 \_\_\_\_\_ 円)

宿泊設備は備えていないがホテル等の宿泊費は支給する

宿泊設備は備えていない。ホテル等の宿泊費も支給しない

その他 ( \_\_\_\_\_ )

\* 食事について

施設内で食事を用意する

施設内で食事の準備はしないが食費を支給する

一部施設内で食事を用意し、一部食費を支給する

その他 ( \_\_\_\_\_ )

\* 交通費について

交通費を支給する

交通費は支給しない

その他 ( \_\_\_\_\_ )

\* その他

日本国内の学会等への参加を援助する

その他 ( \_\_\_\_\_ )

以上の条件のもとに日仏整形外科学会の青年整形外科医の日仏交換プログラムの日本側受け入れ機関となることを承諾します。

平成 年 月 日

受入責任者 氏名

印

# 第9回日仏整形外科合同会議

(9<sup>ème</sup> Réunion de l'AFJO)

## 開催のご案内

第9回日仏整形外科合同会議 (AFJO) を下記の日程で開催いたします。フランスの最新の研究結果に接する良い機会であると思います。また、日本からも日頃の研究成果を発表していただき、フランスの先生方と討論していただければと思います。

多くの先生方のご応募・ご参加をお待ちしています。

【会議期日】 2007年9月14日(金)～15日(土)

【開催場所】 フランス/ニース

【会 長】 Dr. Jacques Caton

【募集要項】 1) 発表内容は整形外科に関するものでしたら分野は問いません。  
2) 演題名、演者名、共同演者名および所属を日本語と英語(もしくはフランス語)で  
3) 200 words 以内の抄録を英語(もしくはフランス語)で  
4) 連絡先(住所、電話番号、ファックス番号、メールアドレス)を日本語で

【主 題】 1. Pediatric Orthopedics  
2. Scoliosis  
3. OA of the Knee Joint  
4. Hip and Knee Surgery

【演題応募先】 E-mailのみで受け付けます。  
大阪府済生会中津病院整形外科内 日仏整形外科学会事務局 係 大橋弘嗣  
E-mail address: LU7H-00HS@asahi-net.or.jp

【演題締め切り】 2007年4月30日(月)

●参加登録などの詳細はホームページ([www.sofjo.gr.jp/](http://www.sofjo.gr.jp/))をご覧ください。参加申込書はホームページからダウンロードできます。お問い合わせは下記事務局 大橋 まで

日仏整形外科学会事務局 〒530-0012 大阪市北区芝田2-10-39 大阪府済生会中津病院整形外科内

Tel (06) 6372-0333 E-mail: LU7H-00HS@asahi-net.or.jp (係 大橋弘嗣)

# 第13回日仏整形外科学会

(13<sup>ème</sup> Réunion de Société Franco-Japonaise d'Orthopédie)

## 開催のご案内

【会議期日】 2008年9月27日(土)

【開催場所】 日本都市センターホテル(東京都千代田区)

【会 長】 金子 和夫 教授(順天堂大学静岡病院 整形外科)



第9回日仏整形外科合同会議（於・フランス・ニース）  
 (ASSOCIATION FRANCE-JAPON D'ORTHOPEDIE)  
 2007年9月14.15日

参加申込書

学会参加者	お名前	姓		名	
	(ローマ字)				
	所属先				
	ご住所	〒			
	電話番号				
	メールアドレス*必須				
ニース到着日		9月10日(月)		9月11日(火)	
○をつけてください		9月12日(水)		9月13日(木)	

<b>A. 学会参加者 参加費</b>	
参加費に含まれる内容： ウェルカムパーティ、ガラ・パーティ、学会参加費、学会昼食(9/14, 15の2回)、 9/13 AFJO フランスからオファーされるオフィシャルツアー	350€
JSE 手数料	60€
<b>A. 参加費合計</b>	€

<b>B. 同伴者の方</b>			
お名前	姓		名
(ローマ字)			
<b>B-1. 参加費</b>			
参加費に含まれる内容： ウェルカムパーティ、ガラ・パーティ、9/13 AFJO フランスからオファーされるオフィシャルツアー、9/14, 15 レディースツアー			250€
JSE 手数料			60€
<b>B-2. レディースツアー</b>			
詳細は、別紙「オプションツアープログラム予定表」を御参照ください。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>各ツアーは最少催行人数を10名以上とさせていただきます、10名集まらない場合はキャンセルになります。</li> <li>参加費に含まれるもの：団体バス料金、駐車料金、運転手・ガイドへのチップ、プログラムに食事が含まれている場合の食事料金(飲物代は含まれません)</li> <li>ツアー中、食事が含まれているか否かについては、別紙「プログラム予定表」をご参照ください。</li> </ul>			
9月14日(金): グラス・カンヌ1日観光	どちらかに○をつけてください→	参加希望	参加しない
9月15日(土): ニース半日観光	どちらかに○をつけてください→	参加希望	参加しない
<b>B. 同伴者参加費合計</b>			€



### C. 宿泊費

学会用ホテル— FOUR POINTS BY SHERATON ELYSEE PALACE****		部屋料金 (朝食・チップ込)
スタンダード/シングル		180€
スタンダード/ダブル		195€
スタンダード/ツイン		195€
デラックス(海の見える部屋)/シングル		220€
デラックス(海の見える部屋)/ダブル	*デラックス/ツインは無	235€

	ご希望の部屋タイプ	
	部屋料金 x 宿泊数	€ x
<b>C. 宿泊費合計</b>		<b>€</b>

### D. 学会前 オプションツアー

詳細は、別紙「オプションツアープログラム予定表」を御参照ください。

- 各オプションツアーは最少催行人数を 20 名以上とさせていただきます、20 名集まらない場合はキャンセルになります。
- ツアー料金に含まれるもの: 団体バス料金、駐車料金、運転手・ガイドへのチップ、プログラムに食事が含まれている場合の食事料金(飲物代は含まれません)
- ツアー中、食事が含まれているか否かについては、別紙「プログラム予定表」をご参照ください。

9月11日(火):エズ・モナコ1日観光	140€ x	名様
9月12日(水):カンヌ・サントロペ1日観光	120€ x	名様
9月13日(木):サン・ポール・ドウ・ヴァンス1日観光	フランス AFJO からのオファー	
<b>D. オプションツアー合計</b>		<b>€</b>

<b>A+B+C+D</b>	
<b>合計</b>	<b>€</b>



- ❖ 表示価格には、空港⇄ホテルの交通費は含みません。
- ❖ オプションツアー参加ならびにフランス到着日は、自由に選択できます。  
フランス到着日は、当申込用紙最初の個人情報欄内「ニース到着日」に該当する日に○を、  
オプションツアーは、別紙『プログラム予定表』をご参照の上、当申込用紙・項目 D「オプションツアー」で、  
参加希望ツアー欄に人数を御記入ください。
- ❖ 学会が手配できるホテルは、表記の Four Points ホテルのみです。(フランス事務局による設定)  
学会中事務局は当ホテル内になり、学会への送迎バスおよびオプションツアーすべて、当ホテルからの発着  
になります。他ホテルご滞在の場合は、移動および費用各自負担となりますのでご了承下さい。

#### 【お申し込み方法】

1. 全ての項目に御記入の上、下記メールまたは FAX にてご返送ください。.....2007 年 5 月 31 日まで

ジャパン・サービス・ヨーロッパ JAPON SERVICE EUROPE (JSE)

FAX : + 33 4 86 17 23 93 E-mail : [jse@japon-service-europe.com](mailto:jse@japon-service-europe.com)

電話でお問い合わせの場合 : + 33 4 72 91 47 60 または + 33 6 11 93 35 84

2. 当申込書受理後、「申込確認書」と「お支払い詳細」をお送りいたします。
  - お申込金(全額の 30%)お支払い期日.....2007 年 5 月 31 日
  - 残額お支払い期日.....2007 年 7 月 20 日

#### 【締切日以降のお申し込みについて】

1. ホテルお申し込みについては、5 月 31 日までを最終締切とさせていただきます。  
5 月締切以降のお申し込みについては、仮予約されているうちで空室ある限り承ることが可能です。  
それ以外につきまして、予約確保の保障はさせていただきますので御承知おきください。

2. 5 月 31 日以降 7 月 19 日以前お申し込みの場合、参加料は以下の通りとなります。

JSE 手数料.....60 ユーロ→80 ユーロ

3. 学会参加のみ 7 月 20 日以降 9 月 3 日まで対応可能ですが、参加料は以下の通りとなります。

JSE 手数料.....60 ユーロ→100 ユーロ

学会参加費.....350 ユーロ→500 ユーロ

同伴者参加費.....250 ユーロ→380 ユーロ

#### 【キャンセル料について】

8 月 12 日まで.....手数料 80 ユーロ以外全額返金

8 月 13 日～8 月 31 日まで.....全額の 25%

9 月 1 日以降.....全額

## 1



### 日仏整形外科学会ボランティアグループ 「パピヨン」 に入会しませんか

——Equipe bénévole pour la SOFJO (AFJO)——

日仏整形外科学会の活動を支えていただくために1996年4月に結成されました。

まず1996年4月13日・14日に東京で開催された第4回日仏整形外科合同会議のお手伝いをするために10数名の先生や関係の方々に登録していただき、会議の開催に協力していただきました。

今後も日仏整形外科学会の運営をお手伝いしていただける先生ならびに一般の方々にボランティアとしてご登録いただき、可能な時間にお手伝いをお願いしたいと思っております。

日仏整形外科学会の会員または会員1名の推薦を受けた方なら誰でも入会できます。

日常的な簡単な英会話ができれば、フランス語は必ずしも必要ではありません。もちろんフランス語のできる方は大歓迎です。シンボルマークは蝶のマークです。

Papillonに関するお問い合わせ、入会申込は日仏整形外科学会事務局、大橋弘嗣まで。

## 2

### インターネットホームページのご紹介



Société  
Franco-Japonaise  
d'Orthopédie

Welcome to So.F.J.O Homepage  
ようこそ日仏整形外科学会 (SOFJO) のホームページへ

日仏整形外科学会のインターネットホームページのアドレスは

<http://www.sofjo.gr.jp/>

です。

是非のぞいてみてください。

- ・沿革
- ・活動内容
- 入会のご案内
- ・役員紹介
- ・共同研究
- ・交換研修
- ・日仏整形外科協議会 (AFJO)
- ・日仏整形外科学会ボランティアグループ
- ・関連リンク集
- ・SOFJO の Top Page へ

## 3

### これまでに 交換研修に参加された 先生方

研修年度	氏名	所属医局
1990	稲毛 昭彦	大阪医科大学
1991	三輪 隆	帝京大学
1991	末松 典明	旭川医科大学
1992	星 忠行	弘前大学
1992	村上 元庸	滋賀医科大学
1992	久保 俊一	京都府立医科大学
1993	小浦 宏	岡山大学
1994	西川 真史	弘前大学
1994	岩崎 幹季	大阪大学
1995	石澤 命仁	滋賀医科大学
1995	安永 裕司	広島大学
1996	安間 基雄	順天堂大学
1996	寺門 淳	千葉大学
1996	仁平高太郎	慶応大学
1997	益田 和明	岐阜大学
1997	金子 和生	山口大学
1998	山川 徹	三重大学
1998	岡本 雅雄	大阪医科大学
1999	清重 佳郎	山形医科大学
1999	川崎 拓	滋賀医科大学
2000	宮本 敬	岐阜大学
2000	藤井 一晃	弘前大学
2000	細野 昇	大阪大学
2001	鳥飼 英久	千葉大学
2001	久我 尚之	九州大学
2002	瀧川 直秀	大阪医科大学
2002	松峯 昭彦	三重大学
2003	柁原 俊久	昭和大学藤が丘病院
2003	矢吹 有里	慶応義塾大学
2004	和田 孝彦	関西医科大学
2004	久留 隆史	広島大学
2004	小山内 俊久	山形大学
2005	小田 幸作	高槻赤十字病院
2005	松尾 篤	九州大学
2006	小室 元	阪和住吉総合病院
2006	城戸 顕	奈良県立医科大学
2006	早稲田 明生	国際親善総合病院
2007	益田 宗彰	総合せき損センター
2007	黒住 健人	高知医療センター
2007	菊池 克久	滋賀医科大学整形外科

## 4

### これまでにフランスから 交換研修医として来られた 先生方と研修施設

研修年度	氏名	研修病院名
1991	Philippe LEVEREAUX	京都府立医科大学・広島大学
1991	Luis Michel COLLET	大阪医科大学・滋賀小児センター・ 福岡こども病院
1992	Frederic DUBRANA	福岡整形外科病院・九州大学
1992	Marc CHASSARD	慶応義塾大学・東海大学・ 札幌医科大学
1994	Philippe WICART	山口大学・金沢大学
1994	Philippe RENAUX	滋賀医科大学・岡山大学
1995	Michel NINOU	大阪医科大学・ 新潟手の外科研究所・広島大学
1997	Bernardo Vargas BARRETO	国立小児病院・岡山大学・ 国立大阪病院
1997	Sylvie MERCIER	大阪医科大学
1998	Jérôme COTTALORDA	大阪医科大学・ 福岡県立粕屋新光園
1999	Olivier CHARROIS	滋賀医科大学・京都市立病院
1999	Eric HAVET	滋賀医科大学
2001	Laurent JACQUOT	福岡整形外科病院・ 慶応義塾大学・高岡整志会病院
2001	Alexandre ROCHWERGER	大阪医科大学・山形大学
2004	Brice ILHARRBORDE	総合せき損センター・ 大阪市立大学



## 編集 後記

2006年10月には京都で第12回日仏整形外科学会(SOFJO)が京都で開催されました。会長の久保教授のご尽力でたくさんの演題が集まり、フランスからのCaton先生、Liverneaux先生も交えて活発な討論が行われました。はじめてのポスター発表も好評だったように思いました。

交換研修報告は城戸先生から原稿をいただきました。今回は本年9月にフランスのニースで行われます第9回日仏整形外科合同会議(AFJO)の演題応募や参加登録の期限が迫ってきており、発行を急ぎましたので一つだけになってしまいました。残りの先生からは次号に報告をいただきたいと思っています。

9月のニースは観光にもいいシーズンだそうです。南フランスにはパリやリヨンとはまた違った雰囲気、風景がありますので、学会以外にも観光も楽しみに参加を計画されればと思います。学会事務局の方からも学会前にいくつかのツアーを計画しているようです。次はニースで皆さんとお目にかかれるのを楽しみにしています。  
(係 大橋弘嗣)

### ●表紙写真によせて……………小野村 敏信

表紙の写真は私の近所にお住まいの佐々木健二さんの写真集「人生好日」(日本カメラ社、2005年)からお借りしたもので、題名は「シーン」、撮影場所はフランス・コルマルと書かれている。最初に目に付く本のカバーにもこの写真が使われているところを見ると、ご本人の評価の高い一枚であるに違いない。

フランスの町を歩いていると、ときどき orthopédie という看板を見かけることがある。われわれ整形外科医はこれを見ると、"Nicholas Andry"、"真直ぐな子供"がまず頭に浮かぶが、店を覗いてみると靴、矯正靴、杖などの歩行補助具、下肢用の装具、ときには他の衛生用品などが並べられている。従ってこの場合の péd- は"子供"ではなくて"足"・"歩"のほうを指すらしい。外科医は散髪屋から、装具療法は靴屋からということもよく聞かされたし、この写真のお店も靴屋さんであることは間違いない。とすると orthopédie という言葉は一体いつごろからあるのか、少々疑問になってくる。この辺のところは小林晶先生に教えていただきたいと思っている。

コルマルはアルガス・ワインの中心地で、私もストラスブルに行った機会に立ち寄ったことがある。随分昔の話になるが、そのとき見たワイン畑とそのあたりに点在する家々の風景の美しさが忘れられない。

### ●「ORTHOPEDIE」をめぐるあれこれ……………小林 晶

これは足の問題、疾病を対象として保存的治療、アドバイスを行ったり、靴の処方および作成する店の看板である。医院ではない。アメリカの足の専門装具士(pedorthist)、ドイツの整形靴専門士(Orthopädie-Schuhtechniker)などと同じである。

欧米ではわが国と違って靴の歴史が長く、それによる障害の研究も盛んである。靴の矯正、製作のみならず、変形、痛みについての治療、アドバイスを与える専門の職業ができた。ある一定期間の実務と資格試験により、免許が与えられる。この資格獲得制度は国、地方によってまちまちである。わが国にも日本整形靴協会が設立されているが、正式な資格制度は未だ存在しない。医師ではない。因みにアメリカでは、普通の医科大学と同様な過程で教育を受けた、「足の専門医」(podiatrist)制度がある。

では、この看板に書かれた ORTHOPEDIE とはどのようなことであろうか。Orthopédie という言葉は、よく知られているように、ニコラ・アンドリ(Nicolas Andry, 1658 - 1742)が1741年に出版した"Orthopédie"が嚆矢である。つまり彼の造語である(この由来を書くとかかなりの紙数になるので、別の機会に述べることにする)。

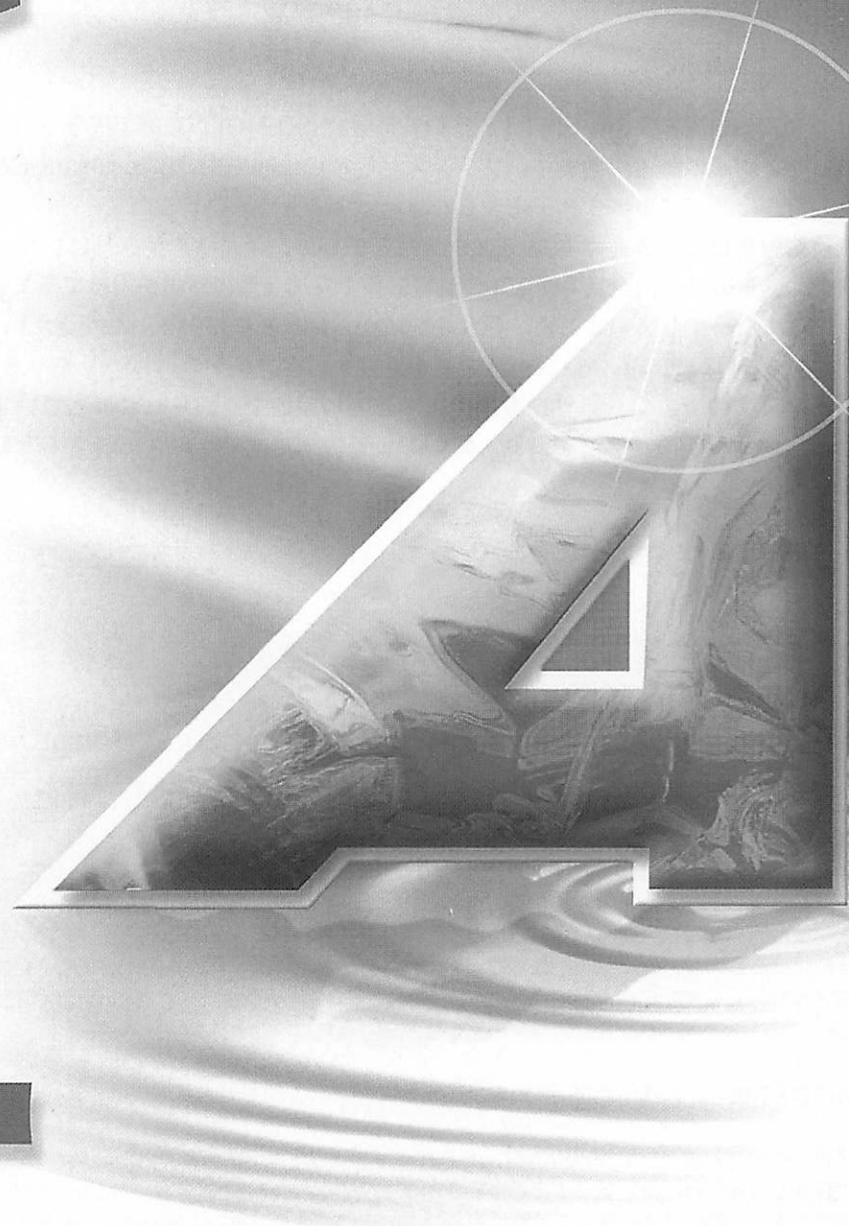
この店の看板に書かれた ORTHOPEDIE には二つのことが考えられる。第一は、この言葉はアンドリが記述したように、本来保存的な治療を意味するのである。現在でも、「非観血的治療」のことをフランス語では"traitement orthopédique"という。これは決して「整形外科的治療」と直訳してはならない。整形靴装具士の行うことは、まさに「非観血的治療」にほかならない。第二は、アンドリは"pédie"はギリシャ語の"pais"(小児)から採用している。しかし、後世の人の中に、これはラテン語の"pes"(足)ではないか、と指摘する者が居たのである。これ以外にも、ギリシャ語の"paideia"(教育)と考える人さえある。このような考え方の人達には、必ずしも"pais"(小児)というものにこだわらなかったのである。

こう考えると、足の問題のみを取り扱う人達が、自分達の専門を ORTHOPEDIE と称したのも、ある程度は理解できる。

この言葉に続く看板の最後の文字"PODOLOGIE"(足病学)も一連のものであることに気づく。なお、中央の切れている字は"CHAUSSURES"(靴)である。

これらの経緯を考慮すると、現在「整形外科学」が orthopaedic surgery, chirurgie orthopédique, orthopädische Chirurgie といわれるのも理解しやすい。

# Actonel



骨粗鬆症治療剤

劇薬  
指定医薬品  
処方せん医薬品<sup>注)</sup>

## アクトネル<sup>®</sup>錠2.5mg

リセドロン酸ナトリウム水和物錠 ●薬価基準収載  
注) 注意一医師等の処方せんにより使用すること

●禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

AJINOMOTO.

製造販売元: 味の素株式会社  
東京都中央区京橋一丁目15番1号

*hve*  
ヒューマンヘルスケア企業



販売元

エーザイ株式会社

東京都文京区小石川4-6-10

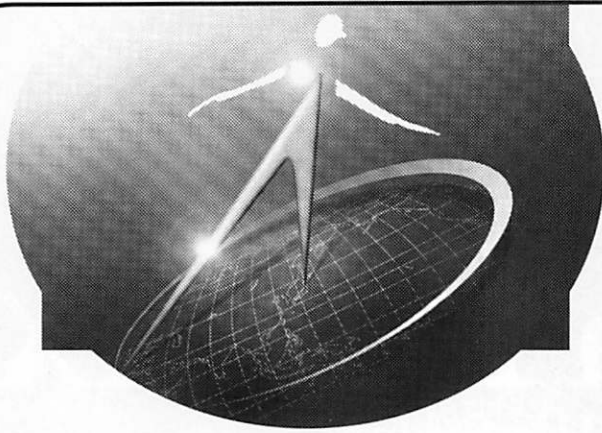
資料請求先: エーザイ株式会社医薬部

商品情報お問い合わせ先:

エーザイ株式会社 お客様ホットライン室

☎0120-419-497 9~18時(土、日、祝日 9~17時)

ACL0511-5 2005年11月作成



関節機能改善剤 (ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液)

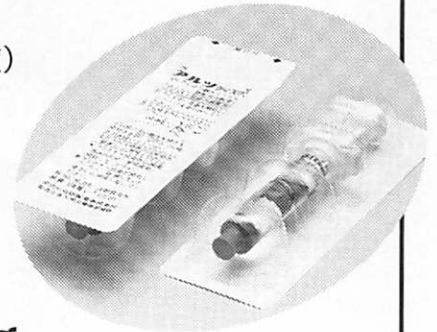
指定医薬品 処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

**アルツ<sup>®</sup>関節注25mg**

指定医薬品 処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

**アルツ<sup>®</sup>ディスポ<sup>®</sup>関節注25mg**

ブリストー包装内滅菌済



〔製造販売元〕 生化学工業株式会社  
東京都千代田区丸の内1丁目6-1



**ADOFEE<sup>®</sup>** 

経皮吸収型鎮痛消炎貼付剤

指定医薬品

**アドフィード<sup>®</sup>**  
(フルルビプロフェン製剤)

〔製造販売元〕 リードケミカル株式会社  
富山市日保77-3

- 各製品の効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等の詳細は、製品添付文書をご参照ください。
- 各製品共、薬価基準収載

 **科研製薬株式会社**

〔発売元・資料請求先〕〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8

06S2  
(2006年11月作成)

# Kyocera PerFix

Total Hip System

*910 Series*  
nine-ten



## Wide Mobility 広いステム可動域

Kyocera PerFix 910 Seriesのデザイン上の可動域は、骨頭径28mmの+3mmボール使用時において135度になっています。その可動域により、カップとステムネック間におけるインピンジメントの発生及び脱臼のリスクを低減させることが期待できます。

910 Kyocera PerFix HAカラーレス / カラーシステム [医療機器承認番号: 20700BZZ00357000]  
910 Kyocera PerFix Cシステム [医療機器承認番号: 21500BZZ00010000]  
セントライザー / ボーンプラグ [医療機器承認番号: 20800BZZ00612000]

### 日本メディカルマテリアル株式会社

大阪市淀川区宮原3丁目3-31 (上村ニッセビル9F) 〒532-0003 Tel:06-6350-1036 Fax:06-6350-5736

<http://www.jmmc.jp/>

商品に関するお問い合わせは下記の支社・営業所まで

東京支社 東京都新宿区西新宿2丁目4-1 (新宿NSビル10F) 〒163-0810 Tel:03-5339-3645 Fax:03-3343-3097

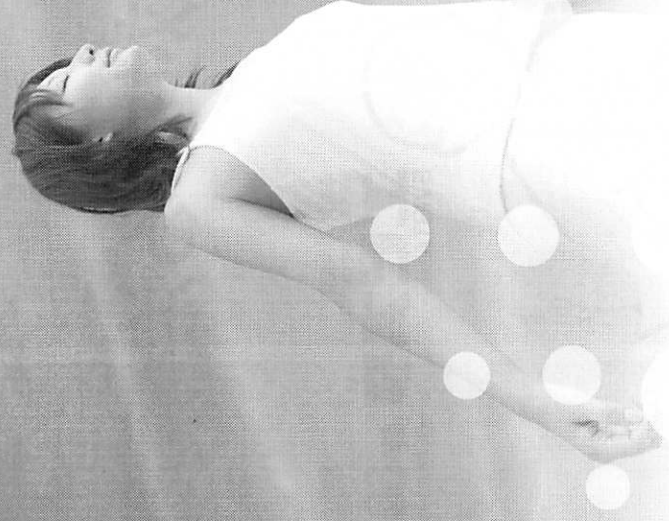
札幌営業所 札幌市中央区北一条西3丁目3 (札幌MNビル9F) 〒060-0001  
Tel:011-280-6020 Fax:011-281-6525  
東北営業所 仙台市青葉区大町2丁目2-10 (住友生命仙台青葉通ビル6F) 〒980-0804  
Tel:022-216-5176 Fax:022-216-7116  
大宮営業所 さいたま市大宮区桜木町2丁目287 (大宮西口大栄ビル4F) 〒330-0854  
Tel:048-640-7779 Fax:048-641-5828  
名古屋営業所 名古屋市中区東3丁目15-31 (住友生命千種ニュータワービル9F) 〒461-0004  
Tel:052-930-1481 Fax:052-938-1377

京都営業所 京都市下京区西洞院通堀小路上ル東堀小路1608-9  
(日本生命京都市三軒ビル3F) 〒600-8216  
Tel:075-353-4322 Fax:075-343-3118  
大阪営業所 大阪市淀川区宮原3丁目3-31 (上村ニッセビル8F) 〒532-0003  
Tel:06-6350-1017 Fax:06-6350-8157  
神戸営業所 神戸市中央区小野柄通7丁目1-1 (日本生命三宮駅前ビル8F) 〒651-0088  
Tel:078-230-2531 Fax:078-230-2536

岡山営業所 岡山市東区10-16 (ニッセイ岡和南岡山ビル4F) 〒700-0826  
Tel:086-803-3620 Fax:086-225-2289  
広島営業所 広島市中区電町13-11 (明治安田生命広島電町ビル9F) 〒730-0016  
Tel:082-212-1003 Fax:082-211-3008  
九州営業所 福岡市博多区博多駅前2丁目10-35 (JTB博多ビル7F) 〒812-0013  
Tel:092-452-8140 Fax:092-452-8177

# LOXONIN

使い続けられているブランド  
 拡がる選択 ロキソニンパップ



**【禁忌】** (次の患者には使用しないこと)

1. 本剤の成分に過敏症の既往歴のある患者
2. アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者  
 【喘息発作を誘発することがある。】

**効能・効果**

下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛

変形性関節症、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛

**用法・用量**

1日1回、患部に貼付する。

**使用上の注意**

1. **慎重投与** (次の患者には慎重に使用すること)

気管支喘息の患者(痛感が悪化させることがある。)

2. **重要な基本的注意**

(1) 消炎鎮痛剤による治療は閉塞療法ではなく対症療法であることに留意すること。

(2) 皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染による炎症に対して用いている場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に投与すること。

(3) 慢性疾患(変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には薬物療法以外の療法も考慮すること。

また、患者の状態を十分に観察し、副作用の発現に留意すること。

**3. 副作用**

安全性評価対象例1,075例中副作用(他覚症状及び臨床検査値異常)の報告されたものは91例(8.5%)であった。その主なものは、そう痒(2.1%)、紅斑(1.5%)、接触性皮炎(1.4%)等の皮膚症状、胃不快感(0.6%)等の消化管症状、ALT(GPT)上昇(0.6%)、AST(GOT)上昇(0.5%)等の臨床検査値異常であった。(承認時)

	副作用の頻度
皮膚	1~3%未満 0.5~1%未満 0.5%未満
皮膚 そう痒 紅斑 接触性皮炎 皮疹	
消化器	胃不快感 上腹部痛 下痢・軟便
肝臓	AST(GOT)上昇 ALT(GPT)上昇 γ-GTP上昇

**4. 妊婦、産婦、授乳婦等への使用**

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ使用すること〔妊娠中の使用に関する安全性は確

立していない。]

**5. 小児等への使用**

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。

**6. 適用上の注意**

**使用部位：**

- (1) 損傷皮膚及び粘膜に使用しないこと。
- (2) 湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。

**■投与期間制限**

本剤は新医薬品であるため、厚生労働省告示第107号(平成18年3月6日付)に基づき、2007年4月末日までは、1回14日分を限度として投薬すること。

- **効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。**

経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤 **薬価基準収載**

# ロキソニン

## パップ<sup>®</sup>100mg

指定医薬品 ロキソプロフェンナトリウム水和物貼付剤

製造販売元



**Daiichi-Sankyo 株式会社**

〒830-0912 富山県富山市日成77-3



Daiichi-Sankyo

販売元(資料請求先)

**第一三共株式会社**

東京都中央区日本橋本町3-5-1

三共株式会社と第一製薬株式会社は2007年4月1日より第一三共株式会社として新たにスタートしました。

中外製薬は「運動器の10年」世界運動を応援しています。



# 中外製薬の

# 運動器疾患に対する治療薬

Ca・骨代謝改善 1 $\alpha$ -OH-D<sub>3</sub>製剤  
創薬、指定医薬品

**アルファロール** ALFAROL<sup>®</sup>  
アルファカルシドール製剤  
薬価基準収載  
0.25 $\mu$ g 1 $\mu$ g  
0.5 $\mu$ g 3 $\mu$ g  
カプセル  
液・散

骨粗鬆症治療剤  
指定医薬品、処方せん医薬品<sup>(注)</sup> 薬価基準収載  
(注) 注意—医師等の処方せんによる使用すること

**エビスタ** EVISTA<sup>®</sup> 錠 60mg  
塩酸ラロキシフェン錠

pH作用型鎮痛・消炎剤  
創薬、指定医薬品

**メナミン** MENAMIN<sup>®</sup> SR150  
持効型ケトプロフェンカプセル  
薬価基準収載

関節機能改善剤  
指定医薬品、処方せん医薬品<sup>(注)</sup> 薬価基準収載  
(注) 注意—医師等の処方せんによる使用すること

**スベニール** SUVENYL<sup>®</sup> ディスポンジバイアル  
ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液

持続性消炎・鎮痛剤  
創薬、指定医薬品

**チルコチル** TILCOTIL<sup>®</sup> 錠 10錠 20錠  
テノキシカム製剤  
薬価基準収載

活性型ビタミンD<sub>3</sub>製剤  
創薬、指定医薬品

**ロカルトロール** Rocaltrol<sup>®</sup> カプセル 0.25錠 0.5錠  
カルシトリオール製剤  
薬価基準収載

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌」を含む使用上の注意等につきましては、添付文書をご参照下さい。 <http://www.chugai-pharm.co.jp>



中外製薬

〔資料請求先〕

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

Roche ロシュグループ

2005.10

# 腰痛症や 変形性関節症等へ 一日、一回。

指定医薬品

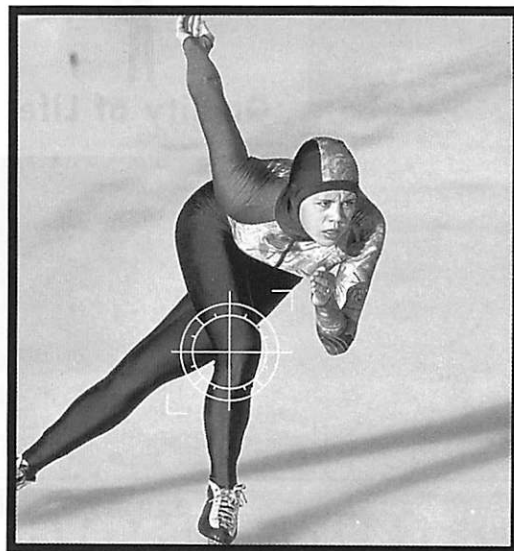
# モーラステープ®

指定医薬品

# モーラステープL®

【ケトプロフェン2%】

慢性  
疼痛性疾患に  
有用です。



- ケトプロフェンの経皮吸収性、組織への浸透性が高く、局所濃度を持続的に維持できます。
- 副作用発現率は4.93% (57例/1,156例) で主に痒痒感、発疹、発赤などの接触皮膚炎でした。(モーラステープ承認時)
- 重大な副作用として、アナフィラキシー様症状、喘息発作の誘発(アスピリン喘息)、接触皮膚炎、光線過敏症が報告されています。
- 伸縮性・柔軟性・粘着性に優れ、使用感が良好です。

**【禁忌】(次の患者には使用しないこと)**

- (1) 本剤又は本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者  
(「重要な基本的注意」の項(1)参照)
- (2) アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者[喘息発作を誘発するおそれがある。]
- (3) チアプロフェン酸、スプロフェン、フェノフィブラート及びオキシベンゾンに対して過敏症の既往歴のある患者[ケトプロフェンと交叉感作性を有することが知られており、本剤の使用によって過敏症を誘発するおそれがある。]

**【効能・効果】**

下記疾患の慢性症状(血行障害、筋痙攣、筋拘縮)を伴う場合の鎮痛・消炎  
腰痛症(筋・筋膜炎腰痛症、変形性脊椎症、椎間板症、腰椎捻挫)、変形性関節症、  
肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎(テニス肘等)

**【効能・効果に関連する使用上の注意】**

- (1) 局所熱感、腫脹等を伴う急性期には有効性が確認されていないので使用しないこと。
- (2) 本剤の使用により重篤な接触皮膚炎、光線過敏症が発現することがあり、中には重度の全身性発疹に進展する例が報告されているので、疾病の治療上の必要性を十分に検討の上、治療上の有益性が危険性を上回る場合にのみ使用すること。

**【用法・用量】**

1日1回患部に貼付する。

**【使用上の注意】**

1. 慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)  
気管支喘息のある患者[アスピリン喘息患者が潜在しているおそれがある。] (「重大な副作用」の項(2)参照)
2. 重要な基本的注意  
(1) 本剤又は本剤の成分により過敏症(紅斑、発疹・発赤、腫脹、刺激感、痒痒等を含む)を発現したことがある患者には使用しないこと。  
(2) 接触皮膚炎又は光線過敏症を発現することがあり、中には重度の全身性発疹に至った症例も報告されているので、使用前に患者に対し次の指導を十分に行うこと。(「重大な副作用」の項(3)(4)参照)  
1) 紫外線曝露の有無にかかわらず、接触皮膚炎を発現することがあるので、発疹・発赤、痒痒感、刺激感等の皮膚症状が認められた場合には、直ちに使用を中止し、患部を遮光し、受診すること。なお、使用後数日を経過して発現する場合は、同様に注意すること。  
2) 光線過敏症を発現することがあるので、使用中は天候にかかわらず、戸外の活動を避けるとともに、日常の外出時も、本剤貼付部を衣服、サポーター等で遮光すること。なお、白い生地や薄手の服は紫外線を透過するおそれがあるので、紫外線を透過させにくい色の衣服などを着用すること。また、使用後数日から数カ月を経過して発現することもあるので、使用後も当然の間、同様に注意すること。  
(3) 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく、対症療法であることに留意すること。  
(4) 皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分に行い、慎重に投与すること。  
(5) 本剤による治療は対症療法であるので、症状に応じて薬物療法以外の療法も考慮すること。また、投与が長期にわたる場合には患者の状態を十分に観察し、副作用の発現に留意すること。

**3. 相互作用**

【併用注意】(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
メトレキサート	ケトプロフェン経口剤とメトレキサートの併用によりメトレキサートの作用が増強されることがある。	ケトプロフェンとメトレキサートを併用した場合、メトレキサートの腎排泄が阻害されることが報告されている。

**4. 副作用**

総症例1,156例中副作用が報告されたのは57例(4.93%)であり、発現した副作用は、発疹11件、発赤9件、痒痒感18件、刺激感5件等の接触皮膚炎54件(4.67%)、貼付部の膨脹、動悸、顔面及び手の浮腫各1件(0.09%)などであった。(モーラステープ承認時)  
ほかに医師などの自発的報告により、アナフィラキシー様症状、喘息発作の誘発(アスピリン喘息)、光線過敏症の発現が報告されている。

**(1) 重大な副作用**

- 1) アナフィラキシー様症状(0.1%未満)  
アナフィラキシー様症状(蕁麻疹、呼吸困難、顔面浮腫等)があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。
- 2) 喘息発作の誘発(アスピリン喘息)(0.1%未満)  
喘息発作を誘発することがあるので、乾性ラ音、喘鳴、呼吸困難等の初期症状が発現した場合は使用を中止すること。気管支喘息患者の中には約10%のアスピリン喘息患者が潜在していると考えられているので留意すること。なお、本剤による喘息発作の誘発は、貼付後数時間で発現している。(「禁忌」の項(2)参照)
- 3) 接触皮膚炎(5%未満、重篤例は頻度不明)  
本剤貼付部に発現した痒痒感、刺激感、紅斑、発疹・発赤等が悪化し、腫脹、浮腫、水疱・びらん等の重度の皮膚炎症状や色素沈着、色素脱失が発現し、さらに全身に皮膚炎症状が拡大し重篤化することがあるので、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、患部を遮光し、適切な処置を行うこと。なお、使用後数日を経過してから発現することもある。
- 4) 光線過敏症(頻度不明)  
本剤の貼付部を紫外線に曝露することにより、強い痒痒感を伴う紅斑、発疹、刺激感、腫脹、浮腫、水疱・びらん等の重度の皮膚炎症状や色素沈着、色素脱失が発現し、さらに全身に皮膚炎症状が拡大し重篤化することがあるので、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、患部を遮光し、適切な処置を行うこと。なお、使用後数日から数カ月を経過してから発現することもある。

**(2) その他の副作用**

分類	頻度	頻度不明	0.1~5%未満	0.1%未満
皮膚 <sup>(1)</sup>			局所の発疹、発赤、腫脹、痒痒感、刺激感、水疱・びらん、色素沈着等	皮下出血
過敏症 <sup>(2)</sup>	蕁麻疹、眼瞼浮腫、顔面浮腫			

注)このような症状があらわれた場合は直ちに使用を中止すること。

※その他の使用上の注意については添付文書をご参照ください。

資料請求先  祐徳薬品工業株式会社 学術グループ  
佐賀県鹿島市大字納富分2596番地1

旭化成ファーマ



**Quality of Life**

骨粗鬆症治療剤

薬価基準収載

**エルシトニン®注20S**  
**エルシトニン®注20S ディスポ**

Elcitonin® Inj. 20S Elcitonin® Inj. 20S Dispo

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品※ (エルカトニン注射液)

※注意—医師等の処方せんにより使用すること。

「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等、詳細については製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元(資料請求先)

**旭化成ファーマ株式会社**

医薬学術統括部：東京都千代田区神田美土代町9番地1  
URL <http://www.asahi-kasei.co.jp/iyaku/>

H18.02

薬価基準収載

**Two Lineup**  
Tablets & Granules



The Power of Bioregulation

胃炎・胃潰瘍治療剤

指定医薬品

**ムコスタ®** 錠100 顆粒20%

Mucosta®

レバミピド製剤



製造販売元  
**大塚製薬株式会社**  
東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先  
**大塚製薬株式会社**  
信頼性保証本部 医薬情報センター  
〒101-8535 東京都千代田区神田司町2-2  
大塚製薬神田第2ビル

〔禁忌(次の患者には投与しないこと)〕  
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

〔効能・効果〕及び〔用法・用量〕

〔効能・効果〕	〔用法・用量〕
胃潰瘍	通常、成人には1回レバミピドとして100mg(ムコスタ錠100：1錠、ムコスタ顆粒20%：0.5g)を1日3回、朝、夕及び就寝前に経口投与する。
下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善 急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期	通常、成人には1回レバミピドとして100mg(ムコスタ錠100：1錠、ムコスタ顆粒20%：0.5g)を1日3回経口投与する。

〔使用上の注意〕—抜粋—

副作用

調査症例10,047例中54例(0.54%)に臨床検査値の異常を含む副作用が認められている。このうち65歳以上の高齢者3,035例では18例(0.59%)に副作用がみられた。副作用発現率、副作用の種類においても高齢者と非高齢者で差は認められなかった。(ムコスタ錠100の承認時及び再審査終了時)

以下の副作用には別途市販後に報告された自発報告を含む。

重大な副作用

1. ショック、アナフィラキシー様症状(頻度不明\*)：ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
2. 白血球減少(0.1%未満)、血小板減少(頻度不明\*)：白血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
3. 肝機能障害(0.1%未満)、黄疸(頻度不明\*)：AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、Al-Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

\*：自発報告において認められた副作用のため頻度不明。

◇その他の使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

(‘06.09作成)



経口プロスタグランジンE<sub>1</sub>誘導体制剤

指定医薬品  
処方せん医薬品<sup>※1</sup>

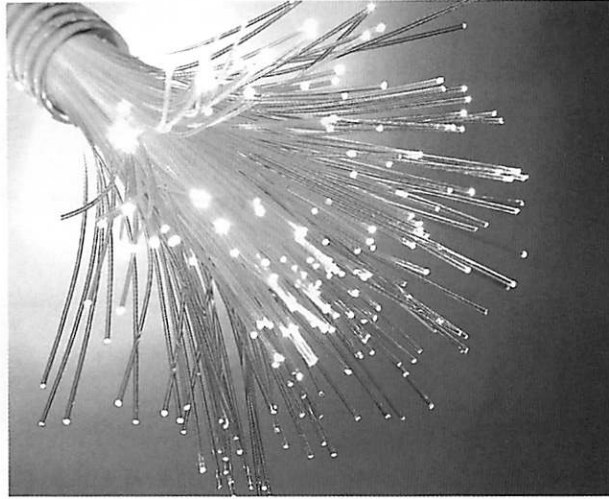
# オパールモン<sup>®</sup>錠 5 $\mu$ g

リマプロスト アルファデクス錠

OPALMON<sup>®</sup>

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること。

薬価基準収載



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、  
詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

050601

# Santen



## Together

抗リウマチ剤

薬価基準収載

創薬、指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

### メトレート<sup>®</sup>錠 2mg

Metolate<sup>®</sup> tablets 2mg

メトトレキサート錠

■(効能・効果)、(用法・用量)、(警告、禁忌を含む使用上の注意)等については、添付文書をご参照下さい。

製造販売元  
S 参天製薬株式会社  
大阪市東淀川区下新庄3-9-19  
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

抗リウマチ剤

薬価基準収載

創薬、指定医薬品、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

### リマチル<sup>®</sup>錠 100mg

Rimatil<sup>®</sup> tablets 100mg

ブシラミン100mg錠

創薬、指定医薬品、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

### リマチル<sup>®</sup>錠 50mg

Rimatil<sup>®</sup> tablets 50mg

ブシラミン50mg錠

■(効能・効果)、(用法・用量)、(禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意)等については、添付文書をご参照下さい。

製造販売元  
S 参天製薬株式会社  
大阪市東淀川区下新庄3-9-19  
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

抗リウマチ剤

薬価基準収載

指定医薬品、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

### アザルフィジン<sup>®</sup>EN錠

Azulfidine<sup>®</sup>EN tablets

サラソスルファピリジン500mg錠

指定医薬品、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

### アザルフィジン<sup>®</sup>EN錠 250mg

Azulfidine<sup>®</sup>EN tablets 250mg

サラソスルファピリジン250mg錠

■(効能・効果)、(用法・用量)、(禁忌を含む使用上の注意)等については、添付文書をご参照下さい。

発売  
S 参天製薬株式会社  
大阪市東淀川区下新庄3-9-19  
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

製造販売  
Pfizer ファイザー株式会社  
東京都港区代々木3-22-7

2005年6月作成  
SM1.05F442



HMG-CoA還元酵素阻害剤

薬価基準収載

**Crestor<sup>®</sup>錠 2.5mg 5mg**

ロスバスタチンカルシウム錠 指定医薬品・処方せん医薬品<sup>注1</sup>

**CRESTOR<sup>®</sup>**

注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

※:アストラゼネカグループであるIPRR社の登録商標です。

●効能・効果、用法・用量、禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意等につきましては製品添付文書等をご参照ください。

製造販売元〔資料請求先〕

**アストラゼネカ株式会社**

〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号

☎0120-189-115 (問い合わせフリーダイヤル  
メディカルインフォメーションセンター)

発売〔資料請求先〕

**シオノギ製薬**

大阪市中央区道修町3-1-8 〒541-0045

☎0120-956-734(問い合わせフリーコール  
シオノギ医薬情報センター)

2006年9月作成A42



注射用セフェム系抗生物質製剤 指定医薬品 処方せん医薬品<sup>注</sup>

**パンスポリン<sup>®</sup>**

静注用 1gバッグS・1gバッグG

(日本薬局方 注射用セフトリアム塩酸塩) 薬価基準:収載 略号:CTM

注射用セフェム系抗生物質製剤 指定医薬品 処方せん医薬品<sup>注</sup>

**ファーストシン<sup>®</sup>**

静注用 1gバッグS・1gバッグG

(日本薬局方 注射用セフトゾラン塩酸塩) 薬価基準:収載 略号:CZOP

## ストップ! メディケーションエラー

リスクマネジメントに配慮したバッグ製剤。武田薬品は、医療現場のリスク軽減に役立ちたいと願っています。

注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

■効能・効果、用法・用量、禁忌・使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



〔資料請求先〕

**武田薬品工業株式会社**

〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

http://www.takeda.co.jp/

(0701)

**带状疱疹後神経痛  
腰痛症、頸肩腕症候群  
肩関節周囲炎、変形性関節症の  
長引く痛み、神経因性疼痛に**

ノイトロピン錠は NSAIDs とは異なる鎮痛機序、臨床特性を持ち、難治性疼痛治療薬の一つに位置づけられています。



指定医薬品

下行性疼痛抑制系賦活型  
疼痛治療剤(非オピオイド、非シクロオキシゲナーゼ阻害)

**ノイトロピン®錠**

ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液含有製剤  
〈薬価基準収載〉

【効能・効果】

带状疱疹後神経痛、腰痛症、頸肩腕症候群  
肩関節周囲炎、変形性関節症

〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

带状疱疹後神経痛に用いる場合は、带状疱疹発症後6ヵ月以上経過した患者を対象とすること。(带状疱疹発症後6ヵ月未満の患者に対する効果は検証されていない。)

【用法・用量】

通常、成人には1日4錠を朝夕2回に分けて経口投与する。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

带状疱疹後神経痛に対しては、4週間で効果の認められない場合は漫然と投薬を続けられないよう注意すること。

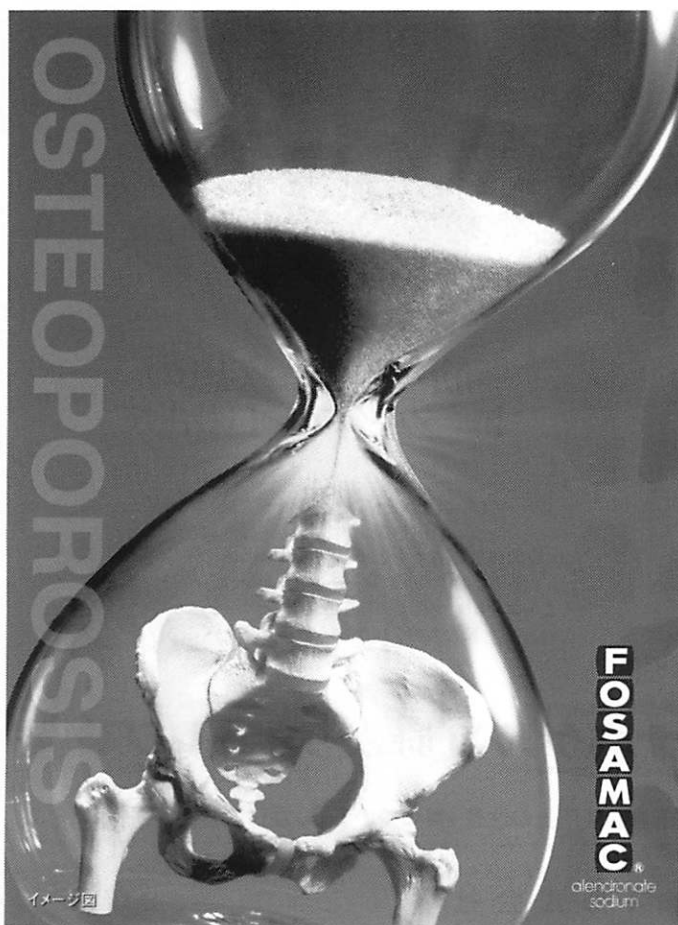
禁忌(次の患者には投与しないこと): 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

※「使用上の注意」などについては添付文書をご参照ください。

資料請求先: 日本臓器製薬株式会社 学術部

**日本臓器製薬**

〒541-0046 大阪市中央区平野町2丁目1番2号 ☎06-6203-0441



骨粗鬆症治療薬

**フォサマック®錠5**

Fosamac® Tablets-5 アレンドロン酸ナトリウム 水和物 錠

新薬・指定医薬品 処方せん医薬品 注意一医師等の処方せんにより使用すること 〈薬価基準収載〉

【禁忌】、【効能・効果】、【用法・用量】、【使用上の注意】等については、製品添付文書をご参照ください。



**BANYU 万有製薬株式会社**

A subsidiary of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A. 〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア  
ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

製造販売元【資料請求先】  
® Trademark of Merck & Co., Inc. Whitehouse Station, N.J., U.S.A.  
2006年3月作成 02-11FSM-06-J-A08-J

プロスタグランジンE<sub>1</sub>製剤

# リプル<sup>®</sup>注5μg・10μg

アルプロスタジル注射液

Liple<sup>®</sup> INJECTION

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品<sup>注1</sup> 薬価基準収載

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

プロスタグランジンE<sub>1</sub>製剤

# リプル<sup>®</sup>キット注10μg

アルプロスタジル注射液

Liple<sup>®</sup> Kit INJECTION

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品<sup>注1</sup> 薬価基準収載

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

Liple



※〈警告〉〈禁忌〉〈効能・効果〉〈用法・用量〉〈使用上の注意〉等の詳細については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元  
**三菱ウェルファーマ株式会社**  
大阪府中央区平野町2-6-9  
〈資料請求先〉 学術情報部 くすり相談グループ  
〒541-0047 大阪府中央区淡路町2-5-6

LIP-(A4 1/2) 2006年4月作成



## 筋・骨格系疾患の トータルケアを目指して

ワイスは、筋・骨格系疾患のトータルケアを目指し、有用性の高い治療薬の開発と提供、医療関係者の方々や患者さんへの幅広い学術情報の提供など多方面からのアプローチを「Arthro-Care」と名付け、このコンセプトのもと、今後さまざまな活動を進めてまいります。私たちのこれからのどうぞご期待ください。

経皮吸収型鎮痛消炎剤(無臭性) | 指定医薬品

**セルタッチ<sup>®</sup>**  
フェルピナク貼付剤 薬価基準収載

非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤 | 劇薬、指定医薬品

**オステラック<sup>®</sup>錠 100/200**  
エトドラク錠 薬価基準収載

経皮吸収型鎮痛消炎剤

**ナパゲルン<sup>®</sup>軟膏**  
フェルピナク製剤 薬価基準収載

抗リウマチ剤 | 劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品<sup>注1</sup>

**リウマトレックス<sup>®</sup>カプセル 2mg**  
メトトレキサートカプセル 薬価基準収載  
注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

【注意】各製品の「効能・効果」、「用法・用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

〈資料請求先〉  
**Wyeth ワイス株式会社**  
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号

2007年1月作成

